

知的贅沢の時間の中で:MCR コースでの 1 年間

医療疫学分野(MCR コース専科生) 藤田 直尚

<4月>

6日(金曜日)の午前中からオリエンテーション。分厚いシラバスなどを配布される。入学式は午後2時から、岡崎の「みやこメッセ」にて。せっかくなので参加する。琵琶湖疏水沿いの桜がキレイだった。9日(月曜日)から授業開始。最初ということもあり、多くの生徒が同じ授業をお試しで受講。授業ごとに、導入で自己紹介をするため、MCR コースの専科生や受講生の顔と経歴が、自然とインプットされる。学部生時代には考えられないほど真面目に、多くの授業を受けることとなり、朝から晩まで大学で過ごす。1日があっという間に過ぎていく。周囲の専科生が受講するというので、月曜日6限の「ゲノムインフォマティクス」も受講することに…。24日(火曜日)、MCR コース専科生&受講生の計13名で飲み会を開催。真四角のテーブルを13名が囲む、不思議な空間だったが、楽しく過ごす。

<5月>

全ての授業が本格化。サラッと出される課題が、意外と重く、週末は課題をこなすことと、復習をするのがやっつ。「STATA」や「Jump」でデータ解析ができるようになり、テンションが上がる。月曜日の2限目の講義は7月からの開講だったので、毎週月曜日の昼は、京都のラーメン店めぐりの時間に決定。一乗寺の有名店を制覇していく。16日(水曜日)、雨で順延になったおかげで、授業の空き時間を何とか工面し、午後の葵祭りを見に行く。

<6月>

2日、オープンキャンパス。まだ2ヶ月しか在籍していないが、経験者として意見を尋ねられる。中旬には「疫学」の授業が終わり、翌週には早速テストが実施される。みんなでテスト勉強、問題を予想。学部生時代のように、何かと楽しい。MCR 専科生は、第1回目のプロマネ発表会が始まる。前の週の金曜日までに、座長と指定質問者の先生に、スライドを送付しておく決まり。ギリギリなのは自分だけでないことに、ちょっと安心する。発表会では、教育的だが、鋭い指摘に言葉を失う。3ヵ月弱の集中学習で、少しわかったような気になっていたが、まだまだ何も分かっていないことを知る。専門医試験出願のための症例報告記載に時間を取られる。30日(土曜日)、締切日に何とか消印有効で書類提出。

<7月>

前期のみの授業が少しずつ終了していく。それに伴い、レポートやグループ発表の嵐。京都を満喫すべく、祇園祭の山鉦巡行を、集まれるMCR コース専科生&受講生で見に行く。新町御池で辻回しを鑑賞。晩秋の学会発表に向けて、抄録提出期限に追われる。教室の納涼会は、鴨川の川床にて。風が気持ちいい。川床からみんなで見た、鴨川の夕暮れの景色は忘れられない。

<8,9月>

中旬に全ての授業が一旦終了。レポート提出に追われる。1年間で終わるMCR 専科生は、来年度の進路に悩んだり、人生の視野を広げたり。課題研究によりやく専念できる環境になる。

<10月>

後期が開始される。必修の授業は、3コマだけだが、せっかくだからと前期同様に多くの授業を取ったため、朝から晩まで大学で過ごす。「医薬品・医療機器開発計画・薬事と審査」の英語課題が、予想以上にヘビー。「系統的レビュー」の課題もボディブローのように、少しずつ効いてくる。MCR 専科生は、第2回目のプロマネ発表会が始まる。今回は、プレゼンテーションも英語ですつ。国際学会での発表を念頭に置けば、良い経験です。10人以上の教官を前に、20分以上も英語で発表させてもらえる、ありがたい機会